

# エルウッド会だより

令和元年度エルウッドカレッジ短期訪問

## エルウッド校短期派遣に参加して

校長 土井 善和

加古忠利会長様を始めエルウッド会の皆様には、日頃から多大なるご支援をいただき深く感謝しております。おかげをもちまして今年度も、34年目を迎えたエルウッド校との姉妹校交流の絆をまた一歩深めることができました。ここに、今年度のエルウッド会の開催案内とともに、簡単な報告をさせていただきますが、最初に残念なお知らせからしなくてはなりません。

去る令和元年6月21日(金)に、本校初代校長であり、この姉妹校提携事業の調印に向けて尽力された鶏徳尚雄先生が87歳でご逝去されました。昨年度のエルウッド会にはご参加していただき、元気なお姿でお話をされていましたが、大変残念でなりません。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。



出発の朝、セントレアで見送りに来てくださった家族と一緒に記念撮影。  
今年成田乗り換えで、早朝にセントレアに集合。その日の夜9時半にはメルボルンに到着しました。

さて、今年度の交流事業は、長期派遣が6月29日(土)から8月7日(水)の40日間、本校生徒3名のオーストラリア滞在、8月18日(日)から9月29日(日)の43日間がエルウッド校生3名の日本滞在中、それぞれ各家庭での約6週間のホームステイとそれぞれの学校生活を体験しました。また、短期派遣は7月30日(火)から8月7日(水)の9日間の日程で行われ、霍田PTA会長様を団長とし、教職員3名、生徒13名の総勢17名でエルウッド

校を訪問してきました。柴崎教諭以外はみな初めての訪問であり、姉妹校提携以来34年間も続くこの大府東高校一の伝統事業に、大変な重みと期待を感じながらの訪問でしたが、オーストラリアというお国柄なのか、エルウッド校の校風なのか、本当にフレンドリーで温かい歓迎を受け、貴重な体験をさせていただきました。これもひとえに、今までこの事業に携わってきた多くの方々の取組があったことで、改めて本校の重要行事の一つであることを強く認識しました。

この交流事業の一番の目的でありよく言われることですが、高校生の時期に、例えば短期間でも異国の文化に直接触れる機会を持つことは、本当に有意義なことだと言ふことを、改めて強く感じました。参加した生徒たちの順応性の高さや行動力には、目を見張るものがあります。短期の13名を見ていて、初日こそ多少の戸惑いもあったようですが、会う度に打ち解け具合が高まり、最終日には、誰もが期間の短さへの物足りなさを口にしていきました。長期の3名に至っては、別れの辛さは既に乗り越え、この関係を今後どう継続するか、次の再会に向けての準備を着々と進めていきました。

いずれにせよ、このエルウッド校訪問の経験が、まだ感性の豊かな若い生徒たちに、日本では味わえない大きな刺激を与え、今後の見方考え方を含めた視野の広がりをもたらしてくれることは間違いありません。それがどんな形で現れるかはわかりませんが、個人の楽しい思い出にとどまることは決してないことを、参加した生徒を見て確信しました。



右：エルウッドプライマリー訪問で、小学生の代表の生徒が案内してくれました。  
左：エルウッドカレッジの歓迎式典で学校のクワイヤーの生徒が国歌を披露してくれました。  
エルウッドプライマリーは100年以上の歴史があり、エルウッドカレッジに隣接しています。校舎の周りには、菜園があり、生徒たちが育てた野菜を使って調理実習を行っていました。

今回の訪問時にエルウッド校からは、短期ステイにおいてもっと多くの生徒を受け入れてもらえないかという依頼がありました。具体的には25名くらいが希望とのことでしたが、今の本校の受け入れ体制だけでは難しく、特に約一週間ではありますが、ホストファミリーの確保が大きな問題となります。

この大変な事業を、この先も引き続き行うことは、本校の教育方針の一つではありますが、今後の継続・発展に向けては、新たな受け入れ体制の形も考えて行かなくてはなりません。これまでの取組をしっかり記憶に留めると同時に、今後の在り方をしっかり議論していく必要があります。今までの支援に感謝すると同時に、さらに絆を深げた形での交流に発展させるべく、今後ともご支援をよろしくお願ひします。

## エルウッドカレッジ再訪問

総務部 柴崎 靖子

今年度の短期訪問団の一員として、三度目になるエルウッドカレッジへの訪問をさせて頂きました。今回の訪問では大きな変化がありました。まず、14年間エルウッドカレッジにお勤めで、大府東高校にも何度もエルウッドの生徒を引率してこられた栗原裕企先生が、学校を変わられました。学校を去られるときはエルウッドの先生方も涙のお別れをされたと聞きまし。また、ロングホルト校長先生がしばらく、ビクトリア州の教育委員会に出向されてエルウッドカレッジを留守にされていました。その代わりに、副校長トッド先生に加え、スコット先生という若い教頭先生がいらっしゃいました。エルウッドカレッジでは、校舎も新しくなり、カリキュラムの改革や世界中からの留学生のリクルート、新しいグラウンドの構想など、ダイナミックなエネルギーを感じました。また、エルウッドカレッジのカリキュラム編成やシラバスの説明、スタッフミーティングへの参加など、様々な機会を与えていただき、教員としても大変よい勉強になりました。

長期の生徒3名、短期の生徒13名それぞれが、未知の世界に出かけて行くことで、多くのことを体験から学んだと思います。多民族、多文化社会の縮図とも言えるエルウッドカレッジで日本とオーストラリアという2か国のみならず、さらに広い世界とのつながりを感じた生徒も多くいたはず。どちらがよい、悪いという尺度ではなく、それぞれの違いを受け止めて、多様性を享受できる世界の作り手として活躍してほしいと心から願ひします。

年を追うごとに変化していくものもありますが、心の交流は変わらず続いていきます。うまく世代交代をしながら当初から続く心の交流を大切に続けていかなければならないと、強く感じた今回の訪問でした。

末筆ではありますが、30年以上も前にこのプログラムを一人から立ち上げられた皆様に、変わらないご報告ができることに喜びと感謝を申し上げます。また両校の交流にご尽力された初代校長、鶏徳先生のご冥福を

お祈り申し上げます。



左から：霍田PTA会長、宮治教諭、ウィル先生、土井校長先生、トッド副校長先生、ジョン先生(日本語の先生)、関根先生(日本語の先生)前列 柴崎



新しくできたエルウッドの校舎と屋外のベンチスペース。ランチをとったりするとこる。

## エルウッドカレッジ短期留学派遣の引率をして

英語科教諭 宮治孝介

今回、私は英語科教諭として短期派遣団の引率をさせて頂きました。海外へは何度か行ったことがありますが、オーストラリアの訪問は初めてであり、生徒の引率ということで多少の緊張を抱きながら、準備を進めていきました。

当日、出発式を終え、手荷物検査に移り、無事にセントレアを出発しました。生徒は、親と別れる際に別れを惜しみ涙するのかわかるとは思いませんでしたが、不安の表情を見せながらも笑顔で「行ってきます！」という生徒が大半で大変頼もしく感じました。一時間ほどで成田空港に着くことができました。遅れもなく、快適な空の旅となりました。乗り換え時間が一時間で少し心配しましたが、成田空港で無事に出国手続きを済ませ、メルボルン行き飛行機に乗りました。このため、日本人の客室乗務員もおり、生徒も安心して乗る様子でした。

無事にメルボルン空港につくと夜でした。季節が反対のため少し肌寒かったのを覚えています。空港からはバスでホテルに移動し、生徒は景色だけでも面白い興奮していました。その日は、生徒はホテルでぐっすり眠れたようでした。翌日の朝、生徒は少し不安と疲れたような顔でしたが、大きく体調を崩している生

徒もなく、バララットに向かいました。バララットではゴールドラッシュに沸いた街の再現や実際の採掘の様子を見るツアーに参加したり、砂金取りを体験するなどしました。半日、バララットで過ごしたのち、エルウッドカレッジに向かいました。道中、生徒は初めて不安そうな顔をしていました。エルウッドにつくとホストファミリーが待ち受けていて、生徒はひきつった笑顔ながらも挨拶をし、無事に各家庭に向かいました。

翌日からは、生徒はホームステイしながら学校に通い、私たち教員はエルウッドカレッジをはじめ、小学校や近隣の高校を見学しました。オーストラリアの学校は、どれも「教育の環境が整って大変驚きでした。各教室にスクリーンになるホワイトボード、プロジェクト、ネット環境またスピーカーなどが常備されていて、毎授業、スクリーンとプロジェクトを抱えて教室に行く私は、うらやましく思いました。また、オーストラリアの生徒はみな生き生きしていて主体性があると感じました。

帰りの道中もハブニングはありましたが、生徒が全員無事に帰国し、空港に迎えに来た親と再会の喜びをかみしめている姿を見て私も胸をなでおろしました。

今回、引率をさせていただいて、私は、日本の英語教育をオーストラリアとまったく同じようにはできませんが、主体的・対話的で深い学びに少しでも近づけるように毎回の授業により力を入れて臨みたいと感じました。また次回、海外派遣の引率をする際に困らないだけの英語力をつけたいと強く感じました。



日本語の授業に参加して。大府東の生徒は日本語を教え、エルウッドの生徒は英語を教え、最後には日本語による寸劇をエルウッドカレッジの生徒が表情豊かに披露しました。  
中央は宮治教諭。

❖ 交換留学生の感想 ❖



今年の交換留学生と本校に来ているタイから来ているAFS留学生も仲良くなりました。

貴重な経験

2年4組 加藤 咲季

私は6月29日から8月7日まで交換留学生としてエルウッドカレッジで学びました。オーストラリアは日本と異なる点が多く、驚きと発見の連続でした。日本ではあまり目にする事のなくなった路面電車でも簡単に移動できたことは驚きの一つです。エルウッドカレッジでは多くのことを学びました。授業では生徒はいつもコンピューターに向かい、質問や話し合いが多く、日本とは異なった雰囲気や新鮮な気持ちでした。日本語を英語で教える機会もあり、予想以上に難しいと思えました。約40日間の間に多くの経験をし、たくさんの友人ができました。この貴重な経験を生かして、それぞれの人の立場に立って考えられるように他国の歴史や文化はもちろんのこと、日本のことも学び、異文化と触れ合う機会を増やし視野を広げていきたいと思えます。

ケイレブ・コラーノ（加藤さん宅）  
日本語の能力が高く、日本の高校生が使うような若者言葉もたくさん知っていました。アニメやゲームで覚えたそうです。ちょっと恥ずかしがり屋で、帰国が近づくとつれ、無口になり、帰りたいと言っていました。

大府東高校のせんせい、生徒のみなさん、ホームステイの加藤さん6週間ありがとうございました。学校の授業や部活や文化祭、体育祭楽しかったです。僕と話してくれてありがとう。日本でたくさん新しいともだち作りました。僕を助けてくれたみんなに感謝したいと思えます。日本にいた間、文化や言葉などたくさん学べました。日本に6週間滞在できるという機会を得たことに感謝しています。ホストファミリーに僕の面倒を見てくれたことに感謝したいと思えます。一緒にいろいろな場所に行くのとても楽しかったです。初めて来たときよりも僕の日本語は少し上手になりました。オーストラリアに戻るのほっと悲しいですが、この素晴らしい楽しい経験をいつも思い出し、大切にします。また日本に来たいです。ありがとうございました。ケイレブ

人生で一番濃い6週間

2年4組 杉山 桃菜

期待でいっぱいに出発した初日。機内からメルボルンの夜景を見たとき、それが不安と緊張でいっぱいになりました。空港まで迎えに来てくれたホストファミリーになれない英語で話しかけると私の言葉を熱心に聞き、たくさん話しかけてくれました。エルウッドカレッジでは世界中から来た留学生が学んでいるので、毎日様々な言葉が飛び交っていました。私が仲良くなった子には中国人、韓国人、ギリシャ人の子もいて、いろいろな言葉を教えあっていました。時間がたち、友達が増えていくにつれて楽しい時間が増えました。再会を約束した友人と今度会うときは英語で日本のことももっと話せるよう

に努力したいと思えました。この6週間は私の人生の中で一番濃い6週間でした。

アーチャー・ルージャス（杉山さん宅）  
絵をかくことが好きで、最後の日にはクラスに自分で描いた絵をプレゼントしました。芸術肌で、感受性も強く、いろいろなことに敏感に気がつき、先生方にも丁寧な対応を心がけていました。

みなさん、僕が日本にいる間仲良くしてくれてありがとうございました。ぼくがこの6週間で経験したことはすべて楽しかったです。2年2組の皆さん僕を助けてくれてありがとうございました。いろいろなところにつれていって来てくれてありがとう。楽しかったです。また近いうちに日本に来たいです。  
アーチャー

留学での思い出

2年4組 松本 怜奈

オーストラリアに着くまでは楽しみな気持ちが大きく不安な気持ちはありませんでしたが、初めてホストファミリーと対面したときに緊張と不安が押し寄せてきました。学校が始まり、エルウッドカレッジに来ている留学生の多さに驚きました。学校で出会った友達に誘ってもらったことがうれしかったです。多くの人に出会い、助けていただきました。そのおかげで6週間笑顔を絶やすことはありませんでした。学校帰りにその日の出来事や面白かったこと、驚いたことなど、何気ない会話が本当に楽しい時間でした。6週間という短いけれど密度の濃い忘れられない経験をしました。

オズカー・ワイネン（松本さん宅）  
おっとりした性格で、女子生徒の間で圧倒的な人気者でした。体育大会では「オズカーと走ろう」というプログラムで多くの生徒に囲まれて、ゴールしました。

大府東のみなさん、ホームステイの松本さん、この6週間ありがとうございました。日本はおもしろかったと、楽しかったです。ぼく、たくさん思い出をあたらしつつくることができました。たくさんたのしいところに行きました。名古屋、金沢、大阪、京都、ラグーナ、長島スパランド。（中略）大府東の皆さんはともやさしかったです。学校で文化祭と体育祭はとても楽しかったです。たくさん日本語の単語を学びました。最後にしばき先生と怜奈と桃菜とさき、ぼくたちを助けてくれてありがとうございました。すぐにまた会いたいです。みなさんありがとうございました。オズカー

❖ 短期派遣生の感想 ❖



フェアウェルパーティーで。最後に全員で記念写真。再会を約束して。

「かけがえない経験と宝物」

2年6組 酒井 海帆

私は9日間のエルウッドカレッジへの留学でかけがえない経験をしたと思っています。私は英語が苦手な英語を話すことに自信がありませんでした。でも、苦手を克服し、少しでも英語に自信を持てるようになりたいという理由で今回の派遣に参加しました。ホームステイの初日、私は英語を話すどころか、聞き取ることさえうまくできませんでした。申し訳ない気持ちと悔しい気持ちでいっぱいでした。日が経つにつれて少しずつ話ができるようになり、たくさんの人と英語でコミュニケーションをとることが楽しくなりました。最後のフェアウェルパーティーで私は英語でスピーチをし、自分の気持ちを英語でホストファミリーやエルウッドの友達に伝えることができました。うまく話せなかった部分もありましたが、多くの方がほめてくださいました。何より、自分の言葉で自分の気持ちを伝えられたことに感動しました。



ことから逃げずに頑張ったことはかけがえない宝物です。この経験を活かし、これからは様々なことに挑戦していきたいと思えます。